

医療福祉の遺業忘れない

江草安彦さん お別れの会に1600人



末光理事長（中央）が追悼の言葉を述べ、遺業をしのいだ江草安彦さんの「お別れの会」

間尊重の理念の下、医療と福祉の融合に率先垂範して取り組まれ、わが国の誇りに在りし日をしのびつつ、先生の熱い思いや言葉の数々を忘れず、日々精励していく」と追悼。村木厚子厚生労働事務次官、伊原木隆太岡山県知事ら7人が別れの言葉を述べた。

江草さんの歩みを紹介する写真がスクリーンに映し出される中、参列者は献花台に白いバラを次々と手向けた。

江草さんは笠岡市生まれ。岡山大医学部小児科の助手を経て1956年の旭川荘創設に参画し、85年に理事長に就任した。人材育成にも力を入れ、91年には川崎医療福祉大（倉敷市）を開学して初代学長を務めた。80年に山陽新聞賞（社会功労）、95年に三木記念

社会福祉法人旭川荘（岡山市北区祇園）の名誉理事長で、3月13日に88歳で死去した江草安彦さんの「お別れの会」が18日、岡山市中区のホテルで開かれ、重

川荘の末光茂理事長が「人全員で黙とうした後、旭

症心身障害児の療育をはじめ、医療福祉の充実に生涯をささげた遺業を約1600人がしのいだ。

賞を受賞、2006年には瑞宝重光章を受章した。

（平田知也）

山陽新聞HPに動画